

第2回学校運営協議会 報告

令和8年7月29日(水)
世田谷区立八幡山小学校
学校運営協議会 委員長 天幸 恵一郎
校長 林田 孝子
事務局 副校長 藤谷 弥生



【出席者】

委員長 天幸 恵一郎 (前年度学校運営委員)
委員 青木 昭文 (前年度学校関係者評価委員)
委員 関口 沙織 (令和8年度 PTA 会長)
委員 井出 美奈子 (令和7年度 PTA 会長補佐)
委員 齋藤 佐千子 (民生児童委員)
委員 林田 孝子 (学校長)

オブザーバー(学校支援コーディネーター): 小野寺 里美 安藤 綾子 堀田 彩子

事務局: 副校長 藤谷 弥生

【議題】

○学校評価重点目標について

昨年度の学校関係者評価委員会からの「3つの提言」を踏まえ、教育課程に基づく以下の4つの重点目標を設定した。

- 1 「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて:「【提言2】なりたい自分や自分の生き方について考える授業や行事を行うことで、課題解決の力を育成し、キャリア教育につなげる」と教育課程の重点目標を受けて設定。
- 2 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて:教育課程の重点目標(互いの個性を尊重し合う教育の推進、異学年交流、安心安全な学校生活)を受けて設定。
- 3 地域社会と協働した教育の推進に向けて:「【提言3】各学年にあったネットリテラシー指導を行うとともに、家庭でもルールの見直しを親子で行うよう分かりやすく伝える」と教育課程の重点目標(地域社会の教育力を生かした教育活動の充実)を受けて設定。
- 4 心も体も健やかな子を育てる:「【提言1】金スポや運動委員を活用することで、体を動かす習慣を付け、心も体も健やかな子を育てる」を受けて設定。

○関係者評価のアンケート項目について

課題解決のための「具体的方策」について評価ができるよう、アンケート項目を大きく見直す必要があるのではないかという意見が出た。アンケート項目・文言については、次回の協議会までに再度検討を行うことになった。

【アンケート項目修正案】

- ・わたしは、家庭で宿題やe-ラーニングの学習をしている。→「e-ラーニング」という表現は、キーボードのリコール対応や低学年への端末配布状況等により、実態を十分に反映していないため、「わたしは家庭で、学校から出された宿題や課題に取り組んでいる」に変更してはどうか。
- ・わたしは、家庭で宿題以外の学習を自主的にしている。→「宿題以外の自学自習(塾を含む)」であることを明記。また、読書や運動など広義の「学び」の視点について、今後の周知していく。
- ・友達と過ごすことで、自分や友達と考えることがある。→「自分や友達と考える」という表現が曖昧であるため、社会性や協働性を問う設問として「友達と協力して考えたり、人との関わりを大切にしたりすること」へ変更してはどうか。
- ・「すぐる」の活用による配布物のペーパーレス化について評価したいため、「広報・情報」の設問に説明を加える。

【新設】

- ・子どもの権利条約に定める「意見表明権」の視点から、児童が自分の考えや意見を安心して表明できると感じているかを把握するための設問
- ・「地域運営学校について(学校と保護者との双方向のコミュニケーションについて)」「教科日本語について」の設問

○運動会（ハチリンピック）についての報告

全校競技として「大玉送り」の実施を検討している。午前開催の枠内で実施するためには時間の確保が必要であり、プログラムの精選について検討を行った。その中で、聖火ランナーの実施方法について見直し案が挙がった。児童の願いや思いを大切にするため、校内アンケートを実施した。

児童アンケートでは、運動会で大切にしたいこととして「勝敗よりも協力」を重視する傾向が見られ、8割以上の児童が「大玉送り（全校競技）」の実施を希望した。一方、聖火ランナーについては学年間で考え方に差があり、一部の高学年児童を中心に継続を望む意見も見られた。

また、PTA 企画委員会において保護者から意見を聴取したところ、「短距離走」への思い入れが強いことが分かった。今後は、児童と保護者双方の期待を踏まえたプログラム構成が課題となる。

そこで、大玉送りの実施に必要な時間を確保するため、動線や事前指導を工夫し、各種目の運営時間短縮と当日の開会式の簡素化を図る方針とした。具体的には、一部の高学年児童から継続を望む声のある「聖火ランナー」を前日の朝にセレモニーとして実施し、希望する保護者も参観できる形とする。当日は簡潔な開会式を行う予定である。なお、雨天の場合は体育館での実施を想定しており、内容等については引き続き検討を進める。

○日本語検定について

日本語検定は年 1 回の実施を継続する予定であるが、以下の課題がある。

- 認知度が低く、受験希望者が少ない。
- 学校で検定を実施しているのは区内でも 2 校程度である。
昨年度まで、学校運営委員会委員長が申込み及び集金の取りまとめを担っていたが、試験日時があらかじめ決まっているため、本業との調整など負担が大きい。
- 申込み及び集金方法について、児童が高額な受験料（1 級約 6,000 円）を現金で持参することによる防犯上のリスクや、保護者の負担がある。

○チャレンジスクールについて

土曜授業日の午後に実施しているチャレンジスクールについて、事業継続の在り方を検討することとした。その理由として、

- 土曜授業日の減少
- 講師候補者（ボランティア）の確保が難しくなっていること
- 区の制度変更により、企画・運営を担っている学校支援コーディネーター制度が約 3 年後に終了する予定であること

などが挙げられる。

○キャリア教育について

例年 12 月頃に、6 年生を対象として地域ボランティア（駐在所武藤さんや京王電鉄細矢さん等）による講話を実施している。講師についても大人主導で決定するのではなく、児童の興味・関心や知りたい職業を踏まえて選定できるとよい。また、対象学年についても見直しを行い、より効果的なキャリア教育の実施方法を検討する。

○校庭の桜の老朽化について

6 月 3 日の台風以降、比較的大きな枝の落下が確認されている。運動会前の安全確保を最優先とし、落下防止策として枝の剪定を実施する。また、改めて樹木医による樹勢調査を行い、その結果を踏まえて伐採や植え替えについて検討する予定である。

○次回開催

9 月 14 日（月）16:00～

主な議題

学校評価アンケート項目の最終決定

学校運営協議会として実施する児童への意見聴取アンケート内容の決定